中国語談話の二連鎖感動詞類における認知プロセスについて

The Cognitive Process in the Two-Chain Interjections in Chinese Discourse

劉　　伝　霞*

LIU Chuanxia

（要旨）

感動詞類に関する研究は，中国語でも，日本語でも，個別的・機能的・意味的なものは多々あるが，二連鎖感動詞類に言及したものはあまり見られない。特に，認知プロセスの観点から行われたものは見当たらない。

本稿では，中国語の自然談話に現れる二連鎖感動詞類を対象とし，前項と後項にはどのような感動詞類が分布するのかについて記述するとともに，二連鎖感動詞類に流れる認知プロセスの仕組みを考察した。

キーワード：中国語　　自然談話　　二連鎖感動詞類　　群　　認知ユニット

1．はじめに

日常会話では，感動詞類が頻繁に出現する。日本語の感動詞類には，「あのー」，「え」，「えーっと」，「まあ」などの感動詞，「ああ」，「うん」，「うーん」，「はい」などの応答詞（cf. 田窪1995:1023-1024）のようなことばが含まれる。中国語の感動詞類には，「啊〈a〉」，「哦〈o〉」，「哎呦〈ai you〉」などの感動詞（cf. 劉1992:188），「嗯〈en〉」，「是〈shi〉」，「对〈dui〉」などの応答詞（cf. 黄2002:47）のようなことばが含まれる[1]。

しかし，実際の談話を観察すると，一人の発話の中に感動詞類が単独で現れる（「単独感動詞類」と呼ぶ）だけではなく，2つの異なる形式の感動詞類が連続して現れる（「二連鎖感動詞類」と呼ぶ）場合がある。たとえば，日本語では（1）のような談話データが見られる。

（1）　A1：　肉の天ぷらって肉，肉の天ぷら
　　B1：　鶏，とり天的な感じ
　　A2：　<u>あ</u>，<u>そう</u>

（1）はA，B二人の自然談話である。A2の下線部の「あ」と「そう」からなる二連鎖感動詞類

* 山口大学大学院東アジア研究科博士課程２年（The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University）

の発話は，日本語の日常会話に頻繁に現れる[2]。同様のことが，中国語の日常会話でも観察される。たとえば，次の（2）のようなものである[3]。

（2） A1： 20瓶防晒也太夸张了吧，1年，1年还差不多，还是整个夏天
20本の日焼け止めのクリームは多すぎるね，1年，1年なら，まあたぶん，あるいは一夏なの
B1： 我也忘了其实，是整个夏天吧感觉
忘れちゃった実は，一夏かなあ
A2： 她们就是特别注意防晒
彼女たちは本当に日焼けに注意してるね
B2： 嗯，対
ええ，そう

（2）のB2の発話内容は，下線部の「嗯」と「対」からなる二連鎖感動詞類である。

以上のように，日本語でも中国語でも同様に二連鎖感動詞類が頻繁に現れるが，ここで疑問が生じる。なぜ，「嗯，対」のように，感動詞類が連続するのであろうか。中国語では，「嗯」と「対」とは，どのような関係にあるのだろうか。

本稿では，中国語の自然談話における二連鎖感動詞類を対象とし，「前項」（前に位置するもの）と「後項」（後に位置するもの）にはどのような感動詞類が使用されるのかについて考察する。また，二連鎖感動詞類に流れる認知的なプロセス（「認知プロセス」と呼ぶ）の仕組みを考察し[4]，仮説を提案する。

2．先行研究

本節では，日本語の感動詞類，中国語の感動詞類に分けて，それぞれに関する先行研究を見てみる。結論としては，日本語も中国語も共に，単独感動詞類の研究はかなりある。しかし，日本語と中国語の単独感動詞類を比較した先行研究は多少あるが，二連鎖感動詞類に言及したものは管見の限りないと思われる。

2.1. 日本語の先行研究

日本語の単独感動詞類に関する代表的な先行研究として，次の4つのものが挙げられる。

まず，定延・田窪（1995:76）では，「モノや事態，節関係を指示する機能を持たず，反射的に，無自覚に用いられがちな感動詞は，話し手の心的操作をそれだけ純粋に反映すると考えられる」と指摘している。次に，田窪（2005:16）は，「感動詞類は本来意味を持たず、心的な情報処理の際に非意図的に生じるいわば音声的身振りのようなものとみることが可能である。しかし、それらをある程度意図的に発することで、自分の心的処理状態を相手に知らせることで意味を生じると考えるのである」と記述している。また，定延（2010:27）は，「フィラー（fillers）とは，伝統文法の「感動詞」とほぼ重なり，実質的内容が希薄で，生起位置が統語的に制限されない語群を

指すものとする」と述べている。そして，定延（2015:3）は，「典型的な感動詞がいわゆる「指示的意味」や「文法的機能」を持たず、人間の何らかの内部状態と結びついている（たとえば感動詞「あ」が気づきや痛みという内部状態と結びついている）ということは広く認められている」と述べている。

これらの研究では，単独感動詞類は「話し手の心的操作」，「心的な情報処理」，「人間の何らかの内部状態」などを反映していると結論付けられている。しかし，これらの性質が，二連鎖感動詞類にも当てはまるかどうかについては言及していない。ただ，認知科学的な考えが単独感動詞類だけに適用されるとは考えにくいため，二連鎖感動詞類に対しても認知科学的なアプローチが必要であることは間違いないであろう。

2.2. 中国語の先行研究

中国語の単独感動詞類についての先行研究には，次のものが挙げられる。

まず，赵（1979:368）では，「叹词永远是自由形式」（感嘆詞の形式は自由である）[5]と指摘し，それぞれの感嘆詞の語音を詳細に記述している。また，刘・潘・故（2001:439）では，「叹词是用来表达强烈感情或者表示呼唤应答的词」（感嘆詞は強烈な感情，呼応，応答などを表す語である）としている。そして，輿水・島田（2009:381）は，「感動詞は独立性が強く，1語で文を成立させることが多い。表す意味からいうと，話し手がひとりで発する自然な叫びと，聞き手への呼びかけやそれに対する応答に大別される」と述べている。さらに，陳（2017:630）は，「フィラーは「情報処理的な心身行動を行っている」と同時に，「心的な状態を反映する言語化された音声表記」である」と記述している。

これらの研究では，感動詞類は高い独立性を持っているという記述からも分かるように，従来，形式面だけに注目されてきた。しかし，近年，陳（2017:630）が言うように「心的な状態を反映する」といった見方など，多角的な分析が行われ始めており，日本語の感動詞類に関する考え方を取り入れているようである。ただ，前述したように，これらの性質が，二連鎖感動詞類にも適用できるかどうかについての研究は，現在のところ見当たらない。

3．調査方法・対象

本稿では，中国語の自然談話に現れる二連鎖感動詞類を調べるために，中国語母語話者同士が中国語の共通語で話している自然談話を調査した。本稿で扱う談話データは，二者間の自然談話である[6]。

調査は2019年5月と6月に，中国語母語話者合計12名を対象に行い，2人ずつに分かれ，6本のデータを収集した。被調査者（以後「発話者」と呼ぶ）は全員20代女性の大学生同士で，親しい友人関係にある。調査におけるすべての発話は，iPhone 8sの「ボイスメモ」によって録音した。調査では，「近況や学校生活など興味のある話題について，30分程度自由に話してください」という指示を発話者に与え，退室した[7]。

調査によって得られたデータは，文字起こしを行った後，その内容を発話者にチェックしてもらった。発話者の属性などを含め，調査データの概要を表１に示した。

表１　調査データ

データ番号	発話者記号	出身地
01	A	河南省新郷市
	B	遼寧省営口市
02	C	山東省河沢市
	D	北京市大興区
03	E	湖北省孝感市
	F	河南省南陽市
04	G	山西省大同市
	H	雲南省弥勒市
05	I	四川省成都市
	J	山東省済南市
06	K	重慶市北碚区
	L	内モンゴル自治区フルンボイル市

表１に示したように，たとえば，データ番号01の談話は，発話者AとBの自然談話である（以下同様）。

本稿では，談話データを「発話番号」「発話」の順番に記す。二連鎖感動詞類が現れる箇所では，それをアンダーラインで示している。また，二連鎖感動詞類の下に中国語の拼音を表記している。そして，その下に日本語訳をつけている。さらに，発話では「トランスクリプトに用いた記号」（串田・林2015:210-211）を参考にし，次のような記号を用いる。

,　：　ごく短いポーズ
[　：　発話や音声が重なり始めた時点
（文字）　：　相手の発話の間の相づちなど
hh　：　「笑い」などの呼気音
?　：　上昇イントネーション
（舌）　：　舌打ちの音
●●　：　国名又は地域名

４．分析

二連鎖感動詞類の分析に入る前に，6本の談話データにおける二連鎖感動詞類の出現状況を表2に示す。

表２　二連鎖感動詞類の一覧

	発話者記号	中国語		日本語訳	出現回数
1	B	嗯，对	<en,dui>	ええ，そう	1
2	D	嗯，对	<en,dui>	ええ，そう	1
3	D	嗯，对对	<en,dui dui>	ええ，そうそう	1
4	K	嗯，对呀	<en,dui ya>	ええ，そう	1
5	L	嗯，哎呀	<en,ai ya>	ええ，あーあ	1
6	C	嗯一，对	<en,dui>	うーん，そう	1
7	J	啊，对对对	<a,dui dui dui>	あ，そうそうそう	1
8	A	哦，也对	<o,ye dui>	あ，まあ	1
9	J	哦一，对	<o,dui>	あー，そう	1
10	J	哦一，也是	<o,ye shi>	あー，まあ	1
11	F	是啊，唉	<shi a,ai>	そう，あーあ	1
12	H	啊?，是吗?	<a,shi ma>	あ?，そう?	1

表２に示したように，二連鎖感動詞類の全出現回数は，全部で12回であった。このうち，「嗯，对」が2回出たので，11種類である。発話者Dが2回発しており，発話者Jが3回発している。また，二連鎖感動詞類の前項は「嗯」「啊」「哦」が多く，後項は「对」や「对」で始まる感動詞類が多い[8]。

「嗯」「啊」「哦」と「对」は，どちらも自然談話において，単独感動詞類として頻繁に用いられるが，二連鎖感動詞類としてもよく見られる。本節では，これらの単独感動詞類の性質が，二連鎖感動詞類にも当てはまるかどうかについて考察することによって，二連鎖感動詞類に流れる「認知プロセス」の仕組みを明らかにし，その仮説を提案する[9]。

まず，中国語の自然談話に現れる応答詞の「嗯」，感動詞の「啊」と「哦」，及びそれらの長音形である応答詞の「嗯—」，感動詞の「哦—」[10]が前項に来る二連鎖感動詞類を対象として，前後の文脈とともに観察する。分析対象とする二連鎖感動詞類は，「嗯，对」のように，異なる2つの感動詞類が結合したもので，しかもそれだけで1ターンが構成されているものである。

4.1.「嗯，对」「啊，对对对」

本節では，二連鎖感動詞類の前項に「嗯」が来る「嗯，对」と「啊」が来る「啊，对对对」を見る。まず，(3) の「嗯，对」の談話データを見てみる。

(3)　A1：　20瓶防晒也太夸张了吧，1年，1年还差不多，还是整个夏天
　　20本の日焼け止めのクリームは多すぎるね，1年，1年なら，まあたぶん，あるいは一夏なの
　　B1：　我也忘了其实，是整个夏天吧感觉
　　忘れちゃった実は，一夏かなあ
　　A2：　她们就是特别注意防晒
　　彼女たちは本当に日焼けに注意してるね
　　B2：　嗯，对
　　en　dui
　　ええ，そう

（3）では，B2に二連鎖感動詞類の「嗯，対」が現れている。ここでの「嗯」と「対」は，どのような意味・機能をもっているのだろうか。

黄（2002:47）では，「嗯」は「相手の発話の受け入れを表す「はい、ええ、うん」のタイプ」に，「対」は「相手が示した判断が妥当であると認定する「そう（です）」のタイプ」（cf. 黄2002:47）にそれぞれ属すると述べている。

ここで（3）を見ると，B2の「嗯」は，直前のAの発話のA2の受け入れを表すだけではないように考えられる。B2の「嗯」の発話時点で，発話者Bは，発話者Aの発話内容A2 に注意を向け，「她们就是特别注意防晒」（彼女たちは本当に日焼けに注意してる）という命題（波線で示す）にアクセスしている[11]。そのうえで，「対」を用いて，「相手が示した判断が妥当であると認定する」（cf. 黄2002:47）というより，直前の命題の真偽を判断している。従って，「嗯，対」全体が1つの応答トークンを構成していると考えられる。

上記から，「嗯」は，発話時に発話者が直前の命題に対するアクセスを行い，「対」は，発話時に発話者が真偽判断を確定すると考えられる。

同様のことは，「嗯，対対」[12]「嗯，対呀」[13] の場合でも考えられる。

次に，前項に「啊」が来る「啊，対対対」を観察してみよう。（4）の談話データを見られたい。

（4） I1：对，你那个时候在国内，你还没回来，那个时候还在放假
そう，Jちゃんはその時には国内にいたね，まだ帰ってない，その時学校はまだ長期休みだったよ
J1：哦
あ
I2：然后，而且那次参加的人特别少，就是，感觉一点
で，そのとき参加する人もめっちゃ少なかった，あのー，ほんの少しだったよ
J2：就是因为过了那个时间了
遅かったかなあ
I3：对，因为过了那个时间了，而且又不能穿浴衣了那时候
そう，遅かったね，特に浴衣を着ることもできなかったね
J3：啊，对对对
a　dui dui dui
あ，そうそうそう

（4）では，J3に二連鎖感動詞類の「啊，対対対」が現れている。「啊」については，劉（1992:187）に「喜びや楽しい気持ちをあらわす」と述べられている。

ここで（4）を見ると，この前項「啊」（低音調）の発話時に，発話者Jが「喜びや楽しい気持ちをあらわ」しているとは考えられない。「啊」（低音調）の発話時点で，発話者は，I3の命題「而且又不能穿浴衣了那时候」（特に浴衣を着ることもできなかった）についてアクセスしているであろう。そして，後項の「対対対」の発話時には，発話者が肯定の真偽判断を下していると考えられる。

このように考えると，「啊」は前述の「嗯」と同様の認知プロセスを持っていると認められる。

4.2.「哦，也对」

ここでは，「哦，也对」[14] という二連鎖感動詞類を観察することによって，「哦」と「也对」について検討する。次の（5）を見られたい。

（5） A1： 但是你看你看，如果像有那种资格证书，（嗯）会不会简单一点
でもねえ，その資格証があれば，（うん）就職の時に少し有利になるの
B1： 嗯—，也不一定吧，我觉得是分公司的要求吧
うーん，そうじゃないかも，会社の要求によるかなあ
A2： 公司的要求
会社の要求
B2： 就是不一定，好比你拿了很多证书，（嗯）但对于这个公司来说你并不是我们想要的人才，只能［就是这些证书只能证明你一个学习的能力（嗯），不能证明你工作的能力（嗯）
簡単じゃないよ，たとえば，たくさんの資格書を持っているけど，（うん）企業に必要な人材じゃない，ただ［なんか，これらの資格書はただ学習能力を証明するが（うん），仕事の能力を証明することができないよ（うん）
A3： ［哦，也对
o　ye dui
［あ，まあ

（5）ではA3に二連鎖感動詞類の「哦，也对」が現れている。「哦」について，劉（1992:188）は，「はっと悟ったり，会得したことをあらわす」と述べている。

ここで（5）を見ると，前項の「哦」（低音調）の発話時には，発話者Aは直前の命題「好比你拿了很多证书，但对于这个公司来说你并不是我们想要的人才」（たとえば，たくさんの資格書を持っているけど，企業に必要な人材じゃない）という発話に対して，「はっと悟ったり，会得した」（cf. 劉1992:188）とは考えられないであろう。即ち，発話者Aは，A3の「哦」の発話時点で，直前の命題へのアクセスを表している。また，後項の「也对」の発話時には，発話者Aは直前の命題の真偽について判断していると考えられる。

しかし，「也对」は「对」のように真偽判断を完全には達成しておらず，保留していると考えられる。なぜなら，A3の発話とB2の発話の一部分が重なっているからである。即ち，A3の発話時には，相手のB2の情報を完全には獲得していないため，最終的な真偽判断を示すことができていないことを示しているのである。

以上より，「哦」の発話時には，発話者が直前の命題に対するアクセスのみを行っている。「也对」の発話時には，発話者が直前の命題に対して真偽判断の保留を行うと考えられる。

4.3.「嗯―，对」

本節では，「嗯」の長音形である「嗯―」が含まれる二連鎖感動詞類を観察する。まず，(6)に「嗯―，对」の談話データを挙げる。

(6) C1： 在●●没有见过，hh，很
●●では見たことがないね，hh，こんなに
D1： 长得很好看的女生
顔がとてもきれいな女子
C2： 不是长得
顔じゃない
D2： 就觉得让人有眼前一亮的那种感觉
周りをぱっと明るくさせるような感じね
C3： 嗯―，对
en dui
うーん，そう

(6) では，C3に二連鎖感動詞類の「嗯―，对」が現れている。前項の「嗯―」の発話時では，発話者Cは音声を伸ばし，D2の命題「就觉得让人有眼前一亮的那种感觉」(周りをぱっと明るくさせるような感じ) の真偽を検討している最中であると考えられる。そして，後項「对」の発話時には，発話者が肯定の真偽判断を下している。

また，同様の振る舞いをするものとして「哦―，对」も観察された。

4.4.「哦―，也是」

次は，「哦」の長音形である「哦―」が含まれる二連鎖感動詞類の「哦―，也是」[15] を観察することによって，「也是」がどのような認知的な機能を持つかについて検討する。(7)を見られたい。

(7) J1：不可能会改时间啊
日程の変更をするはずがないでしょう
I1：对啊，那改时间，那改到
そう，もし変更なら，あのー
J2：改周六吗?
土曜日に変更するの?
I2：改周六的话，那，那，那个，就是学校的那个教室啊什么的分配，［还有贴那些也忙不过来
土曜日なら，あのー，そのー，なんか，学校の教室の使用とか，［またポスターを貼るなども忙しいね
J3：［哦―，也是
o ye shi

［あー，まあ

（7）では，J3に二連鎖感動詞類の「哦—，也是」が現れている。前項「哦—」（低音調）では，前述のように，発話者は直前の命題「改周六的话，学校的那个教室啊什么的分配」（土曜日なら，学校の教室の使用とか）の真偽を検討している最中である。後項の「也是」の発話では，4.2の「也对」と同様，発話者は直前の命題の真偽について判断を保留している。その証拠に，J1の発話時に，「不可能会改时间」（日程の変更をするはずがない）という考えを出している。I1は「对啊」（そう）を用いて応答している。一方，その次に，「那改时间，那改到」（もし変更なら，あのー）と発話し，日程変更の可能性も考えている。そうすると，I1の発話時に，J1の考えを否定していることになる。その後，反対されたJ2はIの考えに従って，日程変更の日を考えている。しかし，J2の発話はまたI2に反対されている。そこで，2回連続して反対されているJはJ3の発話時に，Iの考えに関する判断を保留しているのである。

4.5. まとめ

以上，「嗯」，「啊」，「哦」，「嗯—」，「哦—」の5種類が前項に来る二連鎖感動詞類を考察することにより，（8）のような結論が得られた。

（8） a. 「嗯」「啊」のような感動詞類の発話時には，発話者は直前の命題に対するアクセスのみを行っている。
b. 「嗯—」「哦—」のような感動詞類の発話時には，発話者は直前の命題に対する真偽の検討を行っている。
c. 「也对」「也是」のような感動詞類の発話時には，発話者は直前の命題に対して真偽判断の保留を行っている。
d. 「对」「对呀」「对对对」のような感動詞類の発話時には，発話者は真偽判断の確定を行っている。

また，二連鎖感動詞類の前項と後項の分布を観察したことにより，得られたことを（9）に示す。

（9） a. 「嗯」は，「对」「对对」「对呀」よりも統語的に前に位置する。
b. 「啊」は，「对对对」よりも統語的に前に位置する。
c. 「哦」は，「也对」よりも統語的に前に位置する。
d. 「嗯—」「哦—」は，「对」「也是」よりも統語的に前に位置する。

5．認知ユニットに関する仮説

以上，中国語の二連鎖感動詞類の認知的な機能について考察を進めてきた。4.5の結果を踏まえると，二連鎖感動詞類の発話時に，直前の命題に対して，（10）のような4つの認知プロセスが作用していると仮定することができる。

（10）a.　A群（「嗯」「啊」「哦」など）：発話時に，発話者が直前の命題に対するアクセスを行う。
b.　B群（「嗯—」「哦—」など）：発話時に，発話者が直前の命題に対する真偽の検討を行う。
c.　C群（「也対」「也是」など）：発話時に，発話者が直前の命題に対して真偽判断を保留する。
d.　D群（「対」「対対」「対対対」「対呀」など）：発話時に，発話者が真偽判断を確定する。

また，（9a,b,c,d）から分かるように，これらの群は統語的な順序も決まっている。本稿で扱った二連鎖感動詞類の統語的順序を表３に挙げる。

表３　二連鎖感動詞類の統語的順序

A群	B群	C群	D群
嗯			対
嗯			対対
嗯			対呀
啊			対対対
哦		也対	
	嗯—		対
	哦—		対
	哦—	也是	
前項		後項	

表３に見られる通り，A,B群の感動詞類は前項に位置し，C,D群の感動詞類は後項に位置している。今回のデータには，A群－B群，C群－D群の二連鎖感動詞類の組み合わせは現れなかった。しかし，筆者の内省によると，「哦，嗯—」（あ，うーん）（A群－B群），「也是，対対対」（まあ，そうそうそう）（C群－D群）は日常会話では不自然ではないと考えられる。このことから，二連鎖感動詞類では，すべての組み合わせが許されるのではないだろうか。

以上より，二連鎖感動詞類は単純に2つの感動詞類が並んでいるわけではなく，少なくとも「A群→B群→C群→D群」という統語的順序が決まっている。すなわち，「アクセス（A群）→検討（B群）→真偽判断の保留（C群）→真偽判断の確定（D群）」という一連の認知プロセスがあると仮定できる。また，統語的には，A,B群は前項に現れ，C,D群は後項に現れる，という統語的位置が決まっていることが判明した。

「アクセス（A群）→検討（B群）→真偽判断の保留（C群）→真偽判断の確定（D群）」という一連の認知プロセスは，真偽判断に関する認知的なマクロ プロシージャ（macro procedure）のようなものなので，これを「認知ユニット」として捉え，（11）のように定義する。

（11）認知ユニット：
談話（会話）において二連鎖感動詞類が単独で1ターンに現れる場合，そこで発話者が行う複数の認知プロセスの順序付けられた集合体を「認知ユニット」と呼ぶ。

ここでは，「1ターンである二連鎖感動詞類」に限定しているが，そのような環境では（12）の

ような「真偽判断に関する認知ユニット」を仮定することになる[16]。

（12）真偽判断に関する認知ユニット：
【アクセス（A群）→検討（B群）→真偽判断の保留（C群）→真偽判断の確定（D群）】

6．認知ユニットに関する仮説の検証

本節では，仮定された群や認知ユニットといった概念について，「反復」と「リセット」という現象から検証してみよう。

6.1. 群の検証：反復

前述したように，D群の「対」の反復が見られることがある。（13）を見られたい。

（13）C1：　你看酒它是个什么玩意儿，就是我喝的那红酒，其实那果实酒对不对，它是（嗯）果实发酵产生的一种物质，产生的酒精这个物质，［它并没有
ほら，お酒はどんなものか，あのとき飲んだワイン，実は果実酒でしょう，それ（うん）は果実を発酵させた物で，アルコールを作る，［その中に特にない
D1：　［酒很健康
［お酒は健康的にいい
C2：　并没有这个化学，那种化学酒精，不是那样的
特に化学物，化学アルコールない，ないよ
D2：　嗯，対対
en　dui dui
ええ，そうそう

（13）では，D2に二連鎖感動詞類が現れている。ここでは，前項の「嗯」はA群である。後項のD群の「対」が反復され「対対」となっている。「対」の反復は，発話者D2が発話の直前にあるC2の命題内容に肯定的な判断をしていることを示す。

次は「啊，対対対」が現れる談話データである。（4）の談話データを（14）に再掲する。

（14）I1：对，你那个时候在国内，你还没回来，那个时候还在放假
そう，Jちゃんはその時には国内にいたね，まだ帰ってない，その時学校はまだ長期休みだったよ
J1：哦
あ
I2：然后，而且那次参加的人特别少，就是，感觉一点
で，そのとき参加する人もめっちゃ少なかった，あのー，ほんの少しだったよ
J2：就是因为过了那个时间了

遅かったかなあ

I3：对，因为过了那个时间了，而且又不能穿浴衣了那时候

そう，遅かったね，特に浴衣を着ることもできなかったね

J3：啊，对对对

a　dui dui dui

あ，そうそうそう

（14）では，J3に二連鎖感動詞類が現れている。この前項「啊」はA群である。後項のD群の「对」が反復され「对对对」となっている。「对」の反復は，発話者J3が発話時に直前にあるI3の命題内容に肯定的な判断をしていることを示す。

（13），（14）から見ると，「对对」「对对对」は，「对」が2回あるいは3回反復されているものである。「对」はD群に属し，真偽判断を担っている。ここでは，D群同士の反復と考えられるであろう[17]。また，前項の「啊」「嗯」はA群である。

調査では，D群が後項で反復される形のみ得ている。「哦哦哦，对」「嗯—嗯—，对呀」「也对也对，对」のようなA群同士，B群同士，C群同士が前項で反復される形は，日常談話ではあまり見られない。

なぜD群のみが後項で反復されるのであろうか。なぜA群同士，B群同士，C群同士が前項で反復されないのであろうか。D群は発話者が聞き手に渡さなければならない真偽判断結果の情報であり，それを可能な限り確実に渡すために反復しているのであろうか。

現時点では，中国語の自然談話の二連鎖感動詞類には，同じ群に属する同じ形式の感動詞類の反復だけが観察された。しかし，「对，是啊」[18]（異なる形式のD群同士）のような二連鎖感動詞類は，自然談話の中では不自然ではない。

上記の分析により，D群の感動詞類が何回も現れることが可能であろう。即ち，自然談話の中に現れる感動詞類が，単独感動詞類，二連鎖感動詞類のみならず，三連鎖感動詞類，四連鎖感動詞類，五連鎖感動詞類などのような「連鎖感動詞類」の存在が予測されるだろう[19]。従って，連鎖感動詞類においては，同じような認知プロセスが流れていることも考えられるであろう。ここでは，反復現象により，認知プロセスの仮説は，自然談話においては，広く適用可能であると考えられ，群という概念の裏付けが得られるだろう。

6.2. 認知ユニットの検証：リセット

中国語の自然談話では，真偽判断の認知ユニットが終了し，認知ユニットが再度最初から行われる場合がある。

（15）に，真偽判断の認知ユニットの終了を標示するD群「是啊」の後に「唉」が来る二連鎖感動詞類のデータを挙げる。

（15）F1：　一个月感觉好快啊，（对）主要是

1ヶ月早いね，（そう）特に

E1：（舌）可是下个月，下个星期还要期中考试

（舌）でも来月，来週中間テストがまだあるよ

F2： 对呀，（嗯）就是这个问题啊

そう，（うん）それはまずいね

E2： 还有レポート?

レポートもある?

F3： 是啊，唉

shi a ai

そう，あーあ

E3： 你想，考完N1还有1个月就可以回国了

ねえ，N1の試験が終わってから，あと1ヶ月で帰国できるね

（15）では，F3の「是啊，唉」が二連鎖感動詞類であるが，肯定判断を行う「是啊」はD群に属する。それでは，その直後の「唉」（下降調）は何であろうか。D群は真偽判断に関する認知ユニットの終了を標示することから，「唉」は【是啊】の認知ユニットには含まれないと考えられる。さらに，「唉」によって，発話権がFからEに変わる。同時に，話題もレポートからN1の試験と帰国のことに変わっている[20]。即ち，「唉」は真偽判断の認知ユニットを終了させる感動詞類（「リセット感動詞類」と呼ぶ）である。もっとも，ここでの認知ユニットの終了は，D群が原因であるのか，リセット感動詞類が原因なのかは明確ではない。このことは，（16）の「嗯，哎呀」[21]を見れば明らかである。

（16）L1： 我们研究室太大了，太空旷

うちの研究室は広すぎ，広すぎるね

K1： 嗯

ええ

L2： 我觉得像你们研究室，那种小小的，就比较容易（舌）

Kちゃんの研究室みたい，その小さいのが，いい感じ（舌）

K2： 哦—

あー

L3： 就是能

なんかね

K3： 集中吗?

集中するの?

L4： 嗯，集中精力，就更能稳下来，太大的话太空旷了我觉得

ええ，精力を集中し，落ち着くね，広すぎるとなんか

K4： 嗯，你们专业人多啊

ええ，Lちゃんの専攻の人が多いね

L5： 嗯，哎呀

en ai ya

ええ，あーあ

K5： 我们研究室有个●●男的，小男孩，他也经常来，而且他是那种他一个人，如果他一个人他会在研究室呆着，如果有别人的话，就不愿意一直在研究室，我就觉得他挺奇怪的，是不是介意啊

うちの研究室には●●の男の人ね，よく来る，なんか彼は1人だけの時には，研究室にいるが，もし，ほかの人が来た場合，彼は研究室にいないよ，なんか変だね，なにか不満があるかなあ

（16）では，L5に「嗯，哎呀」という二連鎖感動詞類が現れている。前述したように，「嗯」はA群に属するが，後項の「哎呀」はどの群に属するのだろうか。Lにとって，K4の発話内容の「你们专业人多」（Lちゃんの専攻の人が多い）という命題は，既定の事実である。即ちここでは，L5は，「嗯」を用いて一旦直前の命題にアクセスはしているが，直後に「哎呀」を用いて，命題内容に対する判断ではなく，発話を終わらせているのである。

このことは，K4とK5の発話からも分かる。K4の発話内容は，「你们」（Lちゃん）をめぐる話題であるが，K5の発話内容の話題は，「我们」（うち）である。従って，ここでは話題転換が起こっており，そのきっかけは，L5の「哎呀」だと考えられる。さらに，「哎呀」によって，発話権がLからKに変わる。いわば，この「哎呀」によって，発話者Lは真偽判断の認知ユニットを中断していることになる。つまり，【嗯】が一つの認知ユニットとなっている。ここでの認知ユニットの終了は，リセット感動詞類が原因であることは明らかである。

以上より，「唉」「哎呀」は，真偽判断に関する認知ユニットとは別のものであることが分かる。即ち，リセット感動詞類は，真偽判断に関する認知ユニットの終点あるいは途中に登場し，話題の転換や発話権交替と関わり，それまでの認知プロセスをリセットする機能を持っている。また，これに伴い，リセット感動詞類の存在は，認知ユニットの存在をも示す可能性があるだろう。

7．おわりに

本稿では，中国語の自然談話における，二連鎖感動詞類だけで構成されるターンを対象とし，どのような種類の感動詞類が連続しているのかという統語的な問題を解明した。そのうえで，二連鎖感動詞類に生じる認知プロセスの枠組みを明らかにし，「群」と「認知ユニット」の仮説を提示した。さらに，群や認知ユニットといった概念の妥当性について，反復現象とリセット感動詞類から検証した。その結果，以下のことが明らかになった。

- 二連鎖感動詞類は，4つの任意出現の認知プロセス，即ち，アクセス（A群），検討（B群），真偽判断の保留（C群），真偽判断の確定（D群）によって構成されている。
- 4つの認知プロセスは，「アクセス→検討→真偽判断の保留→真偽判断の確定」というように統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスは，全体として1つの認知ユニット（ここでは「真偽判断に関する認知ユニット」）を形成している。
- 二連鎖感動詞類に反復現象が観察される。後項に同じ群に属する同じ形式の感動詞類の反復

が見られ，群という概念の設定の裏付けが得られる。

- 真偽判断の途中で，認知プロセスを中断するリセット感動詞類を仮定することができ，認知ユニットの存在意義が認められる。

しかし，以下のような問題点や今後の課題も残っている。

- 筆者が収集した言語データは十分な量とは言えない。また，調査対象者を在日中国人留学生に限定して調査を行った。感動詞類の実態を探るためには，インフォーマントの地域，年齢，性別，日本語学習歴などの属性の影響も留意すべきである。今後，様々な角度からデータの量を増やしたい。
- 感動詞類は自然談話のような話しことばに現れるだけでなく，小説のような書きことばにも見られる。しかし，両者においては，感動詞類の出現頻度や音声的なバリエーションなどが異なると考えられる。今後，書きことばのデータも含めて，感動詞類に関する考察をより深めなければならない。
- 二連鎖感動詞類についての分析は，未だ十分とは言えない。特に，反復においては多くの問題がある。たとえば，「对」の反復の回数は前項の種類と関係があるのかどうか，なぜ反復しているのか，という根本的な問題も残っている。反復に関する詳しい分析については今後の課題にしたい。
- イントネーションの問題も残っている。調査では，上昇調の感動詞類がわずかに見られた。たとえば，「啊?，是吗?〈a?，shi ma?〉」（あ?，そう?）に見られる，上昇調の感動詞類の認知的な機能については，今後の課題にしたい。
- 中国語の感動詞類と語気詞の区別は不明確のままである。たとえば，「(舌)」で表記した舌打ち音声を感動詞類と捉えるべきかどうかについては，検討を要する。また，「对」と「对呀」，「是」と「是啊」，それぞれの詳細なニュアンスや機能の差異についても，本稿では言及していない。

今後は，さらに多くの言語データを収集し，詳細な考察をすることによって，二連鎖感動詞類における認知プロセスに関する仮説の妥当性を高めることが必要であろう。

【謝辞】

二連鎖感動詞類に流れる認知プロセスの仮説というアイデアを提供して頂いた劉･有元（近刊）に対し，感謝の意を表します。また，言語調査にご協力頂いた方々に，心から感謝します。

〈注〉

[1] 本稿では，中国語の拼音を記号〈　〉の中に記す。

[2] 筆者は，2017年4月に日本語母語話者同士が日本語で話している談話を調査した。収集した日本語の自然談話データに現れた二連鎖感動詞類を分析的に捉え，「群」「認知ユニット」という仮説を提案した。そして，その仮説を支持するものとして，「反復」「リセット」という現象も提示した。劉・有元（近刊）を参照されたい。

[3] 中国語の発話の下には，日本語訳を付けている。また，日本語訳は，本文中では丸括弧で挙げる場合もあるが，いずれにしても筆者によるものである。

[4] 籾山（2014:1）は，「認知」について，「「人間が、身体を基盤として、頭や心によって行う営み」、「人間が行う知的･感性的営み」」と述べている。

[5] 日本語訳は筆者による。

[6] 本稿の目的には，ある特定の言語現象に潜んでいる普遍的なルールや法則性を導き出すという点がある。本稿で対象とする二連鎖感動詞類においては，ある特定の発話者が，ある特定の二連鎖感動詞類を使用することは確かにあると考えられるが，それは個人レベルの言語運用（linguistic performance）の問題であるため，本稿が目指す言語能力（linguistic competence）の問題ではない。従って，今後の課題とする。

[7] 中国語の談話調査は，2017年から始め，現在も継続している。言語調査の前に，発話者に「話者承諾書」を渡し，個人情報や言語データが記された資料は，厳重に保管すると説明し，調査への参加の同意をもらっている。また，発話者は調査当時全員，筆者の周辺にいる在日中国人留学生であり，日本語上級学習者である。発話者に対して，第二言語（日本語）が母語（中国語）に影響を与えるかどうかに関する研究は見当たらない。そのため，方言の干渉については保留する。

[8] 定延（2007:13）は，「個別的な談話で話し手が何事かを1回しゃべるたびに，発せられた語列が文法へと近づく，という形で，談話語用論は文法を談話からとらえ直そうとしている」と指摘し，また「個々の談話から，どのように言語習慣が立ち上がるかについて，これまで提出されているアイデアは「頻度」1つしかない．つまり，個別的な談話において何度も繰り返し生じる言い方が共同体の言語習慣となり，あまり生じない言い方は言語習慣とならないという考えである．この考えは不自然なものではないと思うが，考えるべきことは頻度以外にもあるのではないか」（cf. 定延2007:13）とも述べている。本稿では，二連鎖感動詞類の出現頻度より，二連鎖感動詞類が流れている認知プロセスの枠組みに着目する必要があると考えている。

[9] 「嗯，哎呀」「是啊，唉」については第6.2節を参照されたい。「啊?，是吗?」については第7章を参照されたい。

[10] 「—」は音声を伸ばしていることを表している。音声の長さは最短でも1秒である。

[11] 「アクセス」というのは，どの程度の時間や頻度で行われているか，もしくはアクセスではなくバッファーへの蓄積と考えるかどうかについては，現時点では保留する。

[12] 「对对」は「对」の反復形と考える。なお，反復形については第6.1節を参照されたい。

[13] これは感動詞類の「对」の後に語気詞の「呀〈ya〉」が付いたものである。意味的には相手に同調するニュアンスが込められている。ここでは，「对」と同様，1つの感動詞類として扱う。

[14] 「也对」は副詞の「也」と「对」からなる1つの感動詞類と考えている。「对」より，肯定応答の度合いが低い。

[15] 「也是」は副詞の「也」と「是」からなる1つの感動詞類と考えている。「是」より，肯定応答の度合いが低い。

[16] （11）は認知ユニットの中の一種であるので，他の種類の認知ユニットも想定できる。「真偽判断に関する認知ユニット」以外のものについては，今後の課題とする。また，記号【　】内には1つの認知ユニットを示している。

[17] 「对对」「对对对」については，「对」の反復であるとして書いているが，「对对」「对对对」は，それぞれ1つの感動詞類であると考えることも可能である。この問題については保留しておく。

[18] 「是啊〈shi a〉」は聞き手に同調する気持ちを表すため，ここでは，「是」と同様，1つの感動詞類として扱う。

[19] 三，四，五連鎖感動詞類とは，3,4,5つの異なる形式の感動詞類が連続するものである。「連鎖感動詞類」とは，異なる形式の感動詞類が連続するものの総称である。

[20] 「N1」は，日本語能力試験1級である。

[21] 「哎呀〈ai ya〉」は「对于突然出现的，一般是但不一定是不愉快的事情的反应所用的最一般的叹词」（感嘆詞であり，突然起こった不快な出来事に遭遇した時に発する）（cf. 赵1979:370）。

〈引用文献〉

＜日本語文献＞

串田秀也・林誠（2015）「WH質問への抵抗　感動詞「いや」の相互行為上の働き」友定賢治（編）『感動詞の言語学』pp.169-211　ひつじ書房.

黄麗華（2002）「中国語の肯定応答表現―日本語と比較しながら―」定延利之（編）『「うん」と「そう」の言語学』pp.47-60　ひつじ書房.

輿水優・島田亜美（2009）『中国語わかる文法』大修館書店.

定延利之（2007）「話し手は言語で感情・評価・態度を表して目的を達するか?―日常の音声コミュニケーションから見えてくること―」『自然言語処理』14（3）pp.3-15.

定延利之（2010）「会話においてフィラーを発するということ」『音声研究』14（3）pp.27-39.

定延利之（2015）「感動詞と内部状態の結びつきの明確化に向けて」友定賢治（編）『感動詞の言語学』pp.3-14　ひつじ書房.

定延利之（編）（2002）『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房.

定延利之・田窪行則（1995）「談話における心的操作モニター機構―心的操作標識「ええと」「あのー」―」『言語研究』108　pp.74-93.

田窪行則（1995）「音声言語の言語学的モデルをめざして―音声対話管理標識を中心に―」『情報処理』36（11）pp.1020-1026.

田窪行則（2005）「感動詞の言語学的位置づけ」『言語』34（11）pp.14-21　大修館書店.

陳海涛（2017）「中国語フィラー“这个”の使用法の分類に関する考察」『人間生活文化研究』27 pp.629-637.

友定賢治（編）（2015）『感動詞の言語学』ひつじ書房.

籾山洋介（2014）『日本語研究のための認知言語学』研究社.

劉月華（1992）『中国語の表現と機能』平松圭子・高橋弥守彦・永吉昭一郎（訳）好文出版.

劉伝霞・有元光彦（近刊）「日本語談話の二連鎖感動詞類に関する予備的考察」友定賢治（編）『感動詞研究の展開』ひつじ書房.

＜中国語文献＞

赵元任（1979）《汉语口语语法》商务印书馆.

刘月华・潘文娱・故韦华（2001）《实用现代汉语语法（增订本）》商务印书馆.